

# 食農教育

「総合的な学習の時間」の総合誌

2004年1月号 No.31

〔特集〕 校区コミュニティ元年！



〔素材研究〕教材への切り口 草木染め

農文協

食農教育 2004年1月号 [No.31]

目次

〔特集〕

## 校区コミュニティ元年！

### ◆座談会◆ 子どもが「生活」と出会う場をつくる

- 地域と学校の垣根をこえて 小泉與七 橋口孝久 田揚江里 藤本勇二 結城登美雄 20
- 「何もなし」町にすこい食の営みが 20
- 生活体験・生活知と学びを結びつける 23
- 「地域の食卓」をいのちを学ぶ場に 27
- 大人も子どもも地域の現実に向き合う力を 31
- ふつうの人の「暮らしの技」に気づく 34
- 地域と学校の連携をどのように積み上げていくか 37

### 写真レポート

校区の牧場で夏休み研修 先生のための酪農体験会 松原明子 40

総合的な学習がきっかけになった お母さんたちの不耕起稲作は大豊作 編集部 42

### ◆校区をつなぐ5つの輪◆

- ①おじさんパワー パソコン、ちゃりんこ、田んぼの学校 校区まるごと遊びの基地に！ いろいろこ 44
- ②不耕起田んぼ 不耕起農法の生き物パワーで学校田が地域の田んぼになる 東京・世田谷区立明生小学校(前町田市立大蔵小学校) 菅原聡 50
- ③バケツイネ 小学生もベテラン農家も 集落全戸でバケツイネづくり 長野・飯田市川路六区の里づくり 広田雅子 54
- ④地産地消 地産地消でつながる校区のモノ・人 熊本・鹿北町立若野小学校の実践 編集部 58
- ⑤農家民宿 都会の子どもからもらった感激が農家と地域を大きくする 長野・農家 市瀬鎮夫 62



◆ 校区をつなぐ輪① おじさんパワー

役つきと年寄りだけの公民館!?

佐賀県武雄市の橋小学校区には、三〇〜五〇代の子育て世代の親たち三〇人ほどでつくる「ちやりんクラブ」という会がある。地域活動とおして、ちやりんこでその辺を走り回っていた子ども時代のコミュニケーションを復活させよう、というものだ。

結成のきっかけは、市役所に勤める水町直久さんが、地元である橋町の公民館主事として赴任したこと。自分たちが育ち、いまも生活している地域なのに、住民活動の中心である公民館に訪れるのは、役つきの人がお年寄りばかりだったからだ。

小、中、高、大、社会人と、大人になるにつれて、勉強も仕事も遊びも、やることすべてが生活の場から離れていってしまふ。同じ地域に住んでいても、みなそれぞれに違つたつながりのなかで生きているようだ。竹を切つて

多世代がかかわる地域活動へ

まずは、元教員で市の教育長までされた吉野千代次先生を招いて、橋町の歴史講座を開いたり、ソフトボール大会をしたり、日常の仕事や生活に負担にならない程度に進みはじめた。

そんな活動に厚みが増したのは、翌二〇〇〇年のこと。県庁に勤めている大串健さんが、「田んぼの学校」という事業を教えてくれたのがきっかけだった。子どもたちといっしょに田んぼを中心とした農村空間まるごとを学びの場にすれば、講師派遣の予算などがつく。ちょうど橋小には勤労体験に使われてきた学校田があるし、もうすぐ



山口さんも、生まれてはじめて田んぼの虫について勉強したという。

「害虫だけでなく、益虫やただの虫まで意識して見たことはなかったですからねー。学校田に通うようになって、はじめて二〇種類もクモがいたことに気づきました。朝行くと、クモの巣が朝露でキレイに光って見えるんです。でも、夕方に行くとなくなって。昼間かかった獲物を巣ごと食べて、店じまいするんですよ」と山口さん。

一方、橋小五年生担任の小川修先生もちゃりんこクラブの応援を歓迎する。「教科書の勉強とはちがって、驚きが先にあるんです。先日子どもたち三八名と大人二〇名くらいで川の生きものを学習したんですが、八〇cmくらいのナマズとか、ライギョまでとれたんですよ。びっくりですよ。こんなに大きな魚が浅瀬でとれたのはなんだろうー? って聞いかけていたんだ。いい学習になっています」。

「総合的な学習の時間」もできる。学校側もなにをしようか考えていたところで、「田んぼの学校をしよう」という提案は、すんなりと受け入れられた。県で二番目に早い「田んぼの学校」の開校だ。

初年度は、減農薬稲作の運動で有名な、宇根豊さんを招くなど、外部講師を呼んで進め方を学んだが、二年目からは完全な自給路線。イネの先生は、郵便局副局長の山口義孝さん。川の先生は県庁の大串さん。地域には投網名人もいるし、郷土史なら吉野先生がいる。橋小へ話をもちかけたねらいの一つは、小学校を巻き込むことで、自分たち親世代のサークル的な活動から、子どもや祖父母世代もかわる地域おこしへと発展させることでもあった。

**5つの間にやら学校評議員に**

とはいえ、間違ったことを教えるわけにはいかない。イネの先生となった

「チャリンコクラブ」は  
町内の若人(自称?)  
なら言住ども大歓迎!!

第二条

会員は、日常の仕事に専念することとし、本会の活動が、かりにも会員の重荷にならぬよう相互理解を深め、話し合いをモットーとしつつもイベントの企画・実施にあたっては、若干の「エネルギー」と「暇づやし」が必要であることを、あらかじめ覚悟するものとする。

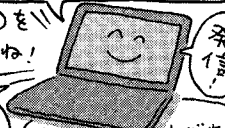
第三条

本会は定期的に企画会議を開催する。また、その際には、金二千円を持って集合し、会員相互の親睦を深めるものとする。  
なお、地球環境への配慮と交通事故防止のため、会議等については、出来る限り「チャリンコ」を使用することとする。



HP(ホームページ)をぜひ見て下さいね!

ハードソフトをうまくつかえれば生活も楽しめるよ



ついでに四輪車(くるま)にのっちゃらんたよね〜



これから地域をつくっていく子どもたちに働きかけて大人になってもしかりのこゝろ体験をさせてあげたいです



いまや、チャリンコクラブは橋小学校にとっても、なくてはならない存在だ。田んぼの先生、川の先生……、中村義昭さんや古川敬通さんにいたっては、いつの間にもやら学校評議員になっていたそう。

**同窓生ともつながろう**

「チャリンコクラブ」に加えてもう一つ、忘れてはならないのが「橋パソコン愛好会」の存在だ。といっても、メンバーは評議員の二人と水町さん、山口さんの四人。なにかイベントがあれば、中村さんがデジカメで写真を撮り、すかさず古川さんが橋町の公式ホームページにアップする。

はじめはワードやエクセルの使い方を仲間であつたように勉強しよう、と集まったのだが、いまではもつぱら「チャリンコクラブ広報部」「校区の情報発信役」という感じだ。田んぼのイネや虫の写真、どろんこバレーのようすなどをアップしたり、イベント案内や、掲示板での交流を行なう。発信者と受信者がお互いチャリンコで集まる範囲の身近な人間だから、とてもリアルなネットワークだ。

最近では、「橋小よさん会」(昭和四三年卒業生)や「橋小四二年卒会」の掲示板もでき、二〜三年に一度同窓会も開かれるようになった。かつて遊んだなつかしい田んぼや川からの情報発信が、卒業生とふるさととの関係をもつてきているのだ。

チャリンコクラブの活動では、校区まるごとが遊びの基地。田んぼの学校をとおして多世代をつなぎ、パソコンをとおして同窓生をつなぐ。橋町でいま、校区を舞台に新しい地域の「人づくり」がはじまっているようだ。

▼橋町のホームページ  
<http://tachibana.dip.jp/top.html>